

解答は、すべて答案用紙に記入して下さい。

# 3 級

## 2020 年 度 第 1 回 メイプル簿記検定試験 問 題 用 紙

(制限時間 2 時間)

(2020 年 6 月 14 日(日) 施行)

簿記の教室 メイプル

## 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

|      |       |       |          |       |     |
|------|-------|-------|----------|-------|-----|
| 現    | 金     | 当座預金  | 普通預金     | 受取手形  | 売掛金 |
| 前払   | 金     | 未収入金  | 仮払金      | 支払手形  | 買掛金 |
| 前受   | 金     | 未払金   | 社会保険料預り金 | 貸倒引当金 | 売上  |
| 仕入   | 支払手数料 | 発送費   | 給料       | 旅費    | 交通費 |
| 消耗品費 | 貸倒損失  | 法定福利費 | 租税公課     | 損益    |     |

1. 従業員が業務のために立て替えた1か月分の諸経費は次のとおりであった。そこで、来月の給料に含めて従業員へ支払うこととし、未払金として計上した。

電車代 ¥8,800      タクシー代 ¥13,200      文房具代(消耗品費) ¥1,650

2. 千葉商事株式会社から商品¥830,000を仕入れ、代金のうち¥130,000は注文時の手付金を充当し、¥500,000は約束手形を振り出し、残額は掛けとした。なお、当社負担の引取運賃¥5,000は現金で支払った。
3. 得意先XYZ商事株式会社の倒産により、同社に対する売掛金(前期販売分)¥170,000が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金の残高は¥48,000である。
4. 従業員にかかる健康保険料¥240,000を普通預金口座から納付した。このうち従業員負担分¥120,000は、社会保険料預り金からの支出であり、残額は会社負担分である。
5. 仕入勘定において算定された売上原価¥3,500,000を損益勘定に振り替えた。

## 第2問 (10点)

メイプル商事株式会社(決算日は毎年3月31日)は、備品について、残存価額ゼロ、定額法により減価償却を行っており、減価償却費は月割計算によって計上している。次の固定資産台帳にもとづいて、答案用紙の各勘定を完成させなさい。なお、「?」の金額は、各自推定すること。

## 固定資産台帳

×7年3月31日現在

| 取得年月日   | 用途  | 耐用年数 | 期首(期中取得)取得原価 | 期首減価償却累計額 | 差引期首(期中取得)帳簿価額 | 当期減価償却費 |
|---------|-----|------|--------------|-----------|----------------|---------|
| 備品      |     |      |              |           |                |         |
| ×4.4.1  | 備品A | 5年   | 1,000,000    | ?         | ?              | ?       |
| ×5.10.1 | 備品B | 6年   | 720,000      | ?         | ?              | ?       |
| ×6.7.1  | 備品C | 4年   | 640,000      | ?         | ?              | ?       |
| 小計      |     |      | 2,360,000    | ?         | ?              | ?       |

## 第3問 (30点)

次の[資料1]および[資料2]にもとづいて、答案用紙の×6年7月31日の残高試算表を作成しなさい。

[資料1] ×6年6月30日の残高試算表

| 残 高 試 算 表  |                   |            |
|------------|-------------------|------------|
| ×6年6月30日   |                   |            |
| 借 方        | 勘 定 科 目           | 貸 方        |
| 457,000    | 現 金               |            |
| 2,138,000  | 当 座 預 金           |            |
| 900,000    | 受 取 手 形           |            |
| 1,235,000  | ク レ ジ ッ ト 売 掛 金   |            |
| 100,000    | 前 払 金             |            |
| 520,000    | 繰 越 商 品           |            |
| 400,000    | 貸 付 金             |            |
| 800,000    | 備 品               |            |
| 280,000    | 差 入 保 証 金         |            |
|            | 支 払 手 形           | 560,000    |
|            | 買 掛 金             | 742,000    |
|            | 所 得 税 預 り 金       | 25,000     |
|            | 貸 倒 引 当 金         | 44,000     |
|            | 備 品 減 価 償 却 累 計 額 | 240,000    |
|            | 資 本 金             | 4,000,000  |
|            | 繰 越 利 益 剰 余 金     | 639,000    |
|            | 売 上               | 5,650,000  |
| 2,840,000  | 仕 入               |            |
| 1,350,000  | 給 料               |            |
| 183,000    | 水 道 光 熱 費         |            |
| 420,000    | 支 払 家 賃           |            |
| 178,000    | 支 払 手 数 料         |            |
| 99,000     | 消 耗 品 費           |            |
| 11,900,000 |                   | 11,900,000 |

[資料2] ×6年7月中の取引

- 1日 貸付金¥400,000の満期日になり、元利合計が当座預金口座に振り込まれた。なお、貸付利率は年3%、貸付期間は3か月であり、利息は月割計算する。
- 2日 商品¥470,000を仕入れ、代金のうち¥100,000は注文時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。
- 4日 商品¥1,220,000をクレジット払いの条件で販売するとともに、信販会社への手数料(販売代金の5%)を計上した。
- 5日 買掛金¥250,000の支払いとして、同額の約束手形を振り出した。
- 7日 先月の給料にかかる所得税の源泉徴収額¥25,000を現金で納付した。
- 10日 オフィス拡張につき、ビルの5階部分を1か月当たり¥200,000で賃借する契約を不動産業者と締結し、保証金(敷金)¥400,000と不動産業者に対する仲介手数料¥200,000を当座預金口座から支払った。
- 12日 商品¥450,000を仕入れ、代金として同額の約束手形を振り出した。
- 13日 商品¥680,000を売り上げ、代金として相手先が振り出した約束手形を受け取った。
- 14日 支払手形¥330,000が決済され、当座預金口座から引き落とされた。
- 19日 クレジット売掛金¥1,235,000が当座預金口座に振り込まれた。
- 20日 給料¥440,000の支払いに際して、所得税の源泉徴収額¥22,000を差し引き、残額を当座預金口座から支払った。
- 22日 受取手形¥610,000が決済され、当座預金口座に振り込まれた。
- 23日 水道光熱費¥62,000と家賃¥340,000が当座預金口座から引き落とされた。
- 27日 買掛金¥340,000を当座預金口座から支払った。
- 30日 商品を購入する契約を締結し、手付金として現金¥80,000を支払った。

#### 第4問 (10点)

次の5月におけるM商品に関する【資料】にもとづいて、下記の問に答えなさい。なお、払出単価の決定方法として、移動平均法を用いるものとする。

##### 【資料】

|      |      |                                       |          |
|------|------|---------------------------------------|----------|
| 5月1日 | 前月繰越 | 200個                                  | @ ¥ 700  |
| 7日   | 仕入   | 300個                                  | @ ¥ 720  |
| 11日  | 売上   | 400個                                  | @ ¥1,200 |
| 16日  | 仕入   | 700個                                  | @ ¥ 744  |
| 22日  | 売上   | 600個                                  | @ ¥1,200 |
| 24日  | 売上返品 | 22日に売り上げた商品のうち品違いのため50個返品(受入欄に記入すること) |          |

問1 答案用紙の商品有高帳(M商品)を作成しなさい。なお、商品有高帳は締め切りまで行うこと。

問2 仮に払出単価の決定方法として先入先出法を用いていた場合、5月のM商品の純売上高および商品仕入高を答えなさい。

#### 第5問 (30点)

次の【決算整理事項等】にもとづいて、問に答えなさい。消費税の仮受け・仮払いは、売上取引・仕入取引のみで行うものとし、決算整理事項等の7.以外は消費税を考慮しない。なお、会計期間は×6年4月1日から×7年3月31日までの1年間である。

##### 【決算整理事項等】

1. 現金の実際有高は、¥342,000であった。帳簿残高との差額のうち¥5,000は通信費の記入漏れであることが判明したが、残額は不明のため、雑損または雑益として記載する。
2. 売掛代金の当座預金口座への入金¥58,000の取引が、誤って借方・貸方ともに¥85,000と記帳されていたので、その修正を行う。
3. 当月の水道光熱費¥11,000が当座預金口座から引き落とされていたが、未処理であった。
4. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
5. 期末商品棚卸高は¥490,000である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
6. 備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を8年とする定額法により減価償却を行う。
7. 消費税の処理(税抜方式)を行う。
8. 借入金は×6年6月1日に借入期間1年、利率年3%で借り入れたもので、利息は11月末日と返済日に6か月分をそれぞれ支払うことになっている。利息の計算は月割による。
9. 支払家賃は毎年5月1日に向こう1年分を支払っている。そこで、前払分を月割により計上する。

問1 答案用紙の精算表を完成しなさい。

問2 決算整理後の売上原価の金額を答えなさい。